

とれんきょうにゅーす

No.100 2009年7月・8月合併号 頒価30円
東京都学童保育連絡協議会
〒170-0005 豊島区南大塚3-37-10
TEL 03-5951-2789 FAX 03-5951-2790
URL: <http://www.gakuho-tokyo.jp>
E-mail: gakuho@a.toshima.ne.jp

100号達成に思う

宇田川 光夫 元・東京都連協会長

『とれんきょうにゅーす』100号達成おめでとうございます。

『とれんきょうニュース』が産声をあげたのは1998年11月のことです。それまでは「情報版」という名称で、各区の学童保育の状況や連絡協議会・父母連等の活動を紹介してきました。

『とれんきょうニュース』が発行されるきっかけとなったのが、「東京都学童保育事業運営要綱」の変更です。各区の情報だけではなく、都や国の情報、その説明・分析等や、連絡協議会の活動等も紹介していくことの必要性に迫られたからではなかったかと記憶しています。

運営要綱の変更問題については、当時の東京都・子育て推進課に説明を求めた上、新実施要綱との主な点を比較しながら、問題点を整理・検証したものをトップ記事で載せています。

また、当時の各区の動きとして、世田谷区が全児童対策事業「BOP」と学童保育とを統合するという提案に対して、父母連が児童課長に説明を求めた状況や、品川区の「児童館と学童保育との一体化」による職員の削減、学童保育独自行事の廃止の提案、荒川区が保育料4,000円の導入を決定したということが載せられています。

1号から今日までの間に東京の学童保育が大きく変わった点といえば、1号がそのことを予告していました。全児童対策事業との統合、全児童対策事業への吸収（学童保育の廃止）が、この11年間で多くの区において強行され現在でも続いています。

またこの間で大きなことはたくさんありましたが、何といたっても東京で全国集会（2007/11/10, 11於：国技館）が15年ぶりに開催されたことではなかったでしょうか。全国集会でも『とれんきょうニュース』がその役割をいかに発揮しています。また、その他の集会や取り組みでも『とれんきょうニュース』が果たした功績は大きいと思います。

定期的に発行しなければならないニュースの担当者にとって苦勞することは、原稿が集まらないこと、締切りを守ってくれないことです。かくいう私も、督促が来てやっと書いている有様です。みんなで協力・努力して200号、300号を達成しようではありませんか。

これからも、みんなの身近な、みんなに愛される『とれんきょうにゅーす』として発展していくことを切に願っています。

とれんきょうにゅーす

1998.11
No.1
〒115-0044
北区赤羽南1-6-11
赤羽須永ビル3E
東京都学童保育連絡協議会
Tel/Fax 03-3902-6562

インターネット 東京都学童保育連絡協議会のホームページ <http://210.163.83/>

都「東京都学童保育事業運営要綱」改正 新要綱は国要綱の引写し、保育水準低下につながるおそれ!! 子育て推進課説明会開催

東京都は、11月20日付で「東京都学童保育事業運営要綱」を「学童クラブ事業（放課後児童健全育成事業）実施要綱（別掲）」に変更しました。三多摩地区にはさかのぼって4月1日から実施、23区には別掲で適用が留保されています。

この要綱変更は東京の学童保育の根幹に関わる問題であることから、都連協は急遽、東京都子育て推進課に説明会の開催を求め、11月25日豊島区民センターで行いました。今回の要綱変更は補助金事業で運営されている三多摩の学童保育に直接的な影響を及ぼすことから、三多摩学童保育連絡協議会と合同で行い、13区5市から36名の父母・指導員が参加しました。

要綱、宇田川会長が「要綱変更の際には「事前に話す」という約束を守らなかった東京都の姿勢は遺憾である」という表明をした後、手配した質疑事項（11項目）に係から回答して頂いた方法で行いました。

質疑事項は、以下の11項目です。

1. 名称変更について（特に「保育」の文言削除）
2. 目的について
3. 実施主体
4. 職員配置（指導員の資格）
5. 実施場所（社会資源の活用）
6. 開設日数（200日の掲載）
7. 保護者負担
8. 状況把握
9. 職員の研修
10. 都区財政調整について
11. 指導費額

要綱変更について係長は、「国庫補助を取り込みうる制度に変更した。そのためには、保護者負担の徴収が区市町村事業に定着していることで、新要綱にもその精神は継承されるはず。」

指導要綱についても同じことが言えるので、活動内容に付けどめた。」「別掲については、参入の立派でない。」「職員配置や学年延長・障害児受け入れなどについては継続しつつ、実務主体である区市町村が判断すること。」ということでした。

学童保育事業の後退につながる有利化や指導要綱の廃止を行う一方で、補助金を都区市町村に責任を押し付けようという姿勢に懸念していたと言ったも混音ではありませんでした。

東京の学童保育は多くの父母・指導員と関係者の粘り強い運動の中から「学童保育事業運営要綱」や「指導要綱」がつけられ、全国の学童保育に関わる父母・指導員の目標となるすぐれた内容を持っています。

しかし東京都は、児童福祉法の「改正」と財政費を理由に、国庫補助を取り込みうる制度に変更する。補助金交付にあたって、

- (1) 保護者負担を削減、
- (2) 学年延長、
- (3) 時間延長、
- (4) 障害児受け入れの促進

第34回全国学童保育指導員学校 南関東会場 報告

6月14日(日) 全国学童保育連絡協議会主催「第34回全国学童保育指導員学校南関東会場」が、大東文化大学板橋校舎を会場に開催されました。大東文化大学文学部教育学科の後援もいただきました。東京23区171名、三多摩地域90名、千葉164名、神奈川174名、そのほか東北、北陸、近畿、四国からの参加者も含めて合計796名の参加があり、大成功となりました。

全体会

まず、基調報告(報告者:光武 都連協会長)が行われ、1.指導員学校とは、2.学童保育と指導員をめぐる状況(急増する学童保育、一方で施設や指導員の条件整備の遅れ 国の施策の動向 私たちの基本的な課題)、3.指導員の実態と課題(短時間労働、不安定な雇用、劣悪な労働条件で働く指導員の増加)、4.いま指導員に求められていること(子どもと親の願いを受け止め、学童保育の実践を豊かに指導員の仕事内容の理解を広げ、働き続けられる条件をつくる 指導員の仲間(組織)作りと学習・研修 保護者との信頼を築きながら、取り組みを進める 指導員の配置、体制、仕事内容を確立し、共通認識を広げ、専任・常勤・常時複数体制を国、自治体に求める ほいく誌を読み広げ、よくする運動に役立てる)、5.参加者一人ひとりがつくる指導員学校、などの報告がありました。学童保育と指導員にとって厳しい状況にあっても、学童保育の内容をよくし、学童保育を発展させるために、指導員の仕事は、常に学び、実践し、検証し、伝え合いながら蓄積していく仕事であり、指導員には積極的に学ぶ姿勢が求められる。指導員学校を自らの学童保育と子どもたちのことを考える機会にしてください、と締めくくりました。

新任指導員からベテランまで様々な世代が集まる指導員学校は、学童保育の指導員というその仕事の深さと広がりを感じさせます。新人には新人なりの、ベテランにはベテランなりの課題があり、その解決のヒントを求めて指導員学校に集う真剣な姿勢が感じられました。

全体講義 「聞いてよ!心のつぶやきと叫び ~子どものことば育ちと生活づくり~」

講師:村山士郎先生(大東文化大学教育学部教授)

1. 今日の子どもの危機は、ことば育ちの危機

文学部、教育学部の先生、小学校の教諭達から話を聞いたり、学童保育の全国集会で、20年以上、子どもの分科会を担当しているが、最近、笑うことがない内容になっている。ある先生の話・・・生活科で蚕の繭ができた。煮詰めて、糸にしようと提案したが、「かわいそう」と他クラスから反対される。では、蚕は何のために生きているの? ある小学校で、作られた柏餅の葉を誤って食べたという事があった。誤って包装は天然と表示されていた。これはあってはならないことだが、小学4~5年でも口に入れた柏餅の葉が、人工の物が天然の物かわからなかった事が困った原因に。こうしたことが多くなり、珍しくない。

バカ、うざい、ババー死ね等、人を傷つける言葉を所かまわず、発する子ども。殺伐とした雰囲気を作り出す。学校から帰ってくると連発して言っている子、いませんか?あたり前の様になると、ギスギスした人間関係になる。言葉はストレートに伝わるもの。だが、子どもの抱えている内面の状況を見せないで、じっとしていればいいのか、外側に「荒れているぞ」と見せているのがあるのか。

学童保育で、いろいろあるのはあたり前。悪態をつくのは、語りかけてくれる人がいないから。そのまま出せるということは、安心できる場所だから。今日の子供達は、悲しさ、淋しさ、不安感を抱えている。感情表現できない子は受けとめてもらっていない子。教育者は、やさしい言葉をかけてやりたいが途中で途切れてしまう。そうすると子どもは簡単に信用しない。そして、溜め込んだ感情があるきっかけで爆発するのではないか。そういう見方をしていかななくては。

2. 言葉の抽象化、商品化、記号化

<抽象化> 事物と言葉が繋がらない。事物に触れたり、体験したことのない言葉が増えている。図鑑を見るのが大好きで、昆虫の名前を知っているが、実際には見たことも、捕まえたことがない。生活体験や実感なしに知っている言葉が増えている。生の事物と事柄につながらないことばの現象を「ことばの抽象化」と呼ぶ。

<商品化> 商品として送り込まれた言葉が、日常的な言葉となっている。知人の3歳の男子は、一番好きなテレビが、炎神戦隊ゴオーレンジャーだ。ゴオーレンジャーと浮かぶとたちまち、ファイティングポーズをとる。ゴオーレンジャーと言葉が浮かぶと、攻撃的になるのでお母さんが禁止していた。

テレビのお笑い番組では、作られた笑いの感覚が浸透している。商品化された笑いは冷やかしやからかいになり、いじめの世界にも入り込んでいる。大切な話をしている時「こんなの関係ない」と言ってしまうと、教室の中の思考が中断する。生活体験でない言葉が広がり、言葉の価値も下がる。言葉のコミュニケーションは、生まれてこない。

<記号化> パソコンにキーワードを打ち込むと、世界中に流されている情報を集めることができる。ただ、一文字違うと情報に行き着かない。デジタル言葉は絶対正確の反面、融通性きかない言葉・・・これは記号の言葉。人間の言葉は、一人ひとりの生活と結びついた意味を持っている。携帯電話の絵文字、感情の記号化、人工的な言葉の世界で生活している時間が増えている。

3. 学力低下の原因としての言葉の衰退

日本の子ども達言葉の力、語彙力、表現力、読解力が衰退していることが、学力低下と深く関係している。

教科書言葉の意味がわからない

埼玉県内の小学校に校内研究に講師として参加した時のこと。3年生の国語の『ちいちゃんのかげおくり』で「出征」など、ほとんど知らないのはうなづけるが、先生達の予測と違い、「つぶやく」「目を落とす」「まばたき」「はぐれる」「こらえる」「足を踏み入れる」が分からなかった。特に「はぐれる」は、ちいちゃんがお母さんと空襲に遭い、逃げる場面のキーワード。読解力以前に語彙力の低下が、学力の低下の一つの要因と言える。

生活体験が乏しいことや、動作とつぎ合わせて、得た言葉が乏しい

ろうそく4本に火を点けて、大きさの違う皿を被せると、どれが先に火が消えるかという問いも、マッチをすったりする経験がないので分からなかった。(国際学力調査)

中学校の学力調査でも、理由を書く、言葉で書く、体験と言葉をつなげるこの部分が弱い。

4. 内言の発達と意味化を進める生活表現

<内言...自己・自分に語りかける言葉> たとえば、バスジャック、娘が女親を殺害など、少年少女、若者による衝撃的な事件が連続している。人間を物のように扱う感覚、人間関係の変質。どのように受けとめていかなくはないのか。子どもの生活がどんな困難でも、どんなに荒れていても、攻撃的でも、現実に向き合う勇気が必要。教育、子育てとは、子どもの中に愛しさを感じとること。こんな些細な理由でと思われても、生まれて14～15年育った過程全体で考えてみないといけないのでは。少年少女の行動は、親子の離脱、そして自分との決別だったと見えてくる。

また、大事件で自分の名前が出ると話を聞いてくれると思ってやった。親に叱られたので嫌がらせをしようと思った。こういう所に幼児性を感じる。親への不満や見放されるのではないかと不安感と報復行動・・・。幼児的に見える陰には、社会経験の欠落、社会性の未発達が指摘されるが、私は、根底に言葉の未成熟さがあるのではと仮説している。そして内言の未成熟さを指摘したい。

(幼児は自己中心的な言葉であり、学童期に言語の機能が転化して内言に移行する、内言という新しい形の言葉の誕生に成長すると、ロシアの心理学者ヴィゴツキーは結論づけている。自己中心的な言葉は死滅するのではなく、自己に語りかける言葉に転化するということ。)

<村山先生の仮説的な考えとして> 日本の子ども達は、この学童期の入り口で内言の形成が遅れているのではないかと考えている。その後、高学年から思春期の入り口でも未成熟なのは、自分の内なる言葉、自分への言葉が遅れているのではと考えられる。幼児期につぶやいた言葉が受けとめられないと、言語機能はしぼむ。もう一つ、学校教育で1つの答えを求める教育は、個性的な内側の言葉は育たない。内言の未成熟さは、自分とコミュニケーションできない現象となり、キレ現象の1つとなっていると考えられる。もう一つ、くり返して話してきたが、事物と言葉が結びついていないので、言葉の意味が広がらず、自分の感じる心や考え方を持つことが苦手となっているのでは。言葉、表現・コミュニケーションは、人間形成にとって意味を持っていると同時に、学力としても意味を持っている。

さて、言葉育ちという問題意識が生まれたのは、毎日のようにくる娘の子ども達(ももか・かずき)との生活で、子どもが言葉を獲得しながら成長する過程を楽しませてくれたこと、日本の学童ほいく誌に連載し、改めて子どもの言葉育ちがキーワードになっていると気付かされたこと。

最後に、小学生作文や詩を紹介して講義を終えられた。

全国学童保育指導員学校南関東会場では北は山形・福島から、西は四国の愛媛まで、指導員が集まって熱心に学び合いました。参加者の声をお届けします。



[午前 村山士郎先生の全体講演から]

村山先生のお話はとても勉強になり、楽しく聞くことができました。もっと聞きたいと思いました。また研究集会で先生の講義をまた聞きたいと思います。また、2008年度の「日本の学童はいく」誌の村山先生の講座のページは、毎回読ませていただき、とても勉強になりました。村山先生のお話が聞けて良かったです。(指導員2年7ヶ月)

ことば一つで嬉しくもつらくもなることがあり、その言葉の育ちが今、からみ合ってしまったことを改めて感じました。子どもたちの何げない言葉やつぶやきを少しでも受け止めていってあげたいと感じました。(指導員1年3ヶ月)

[午後の講座から]

第1講座 学童保育とは何か、指導員の仕事・役割とは何か

133名の保育、10人体制で毎日が戦場みたいです。お話を聞き、一人ひとりが違うこと、マニュアルではないことに共感しました。(指導員10年以上)

第6講座 子どもの遊び・学び・仕事

ワークショップがあり、とても楽しかったです。即実践してみようと思います。遊びの大切さを実感しました。何でも遊びにできる、工夫次第でと思いました。(指導員4年2ヶ月)

第2講座 学童保育で大切にしたいこと

日々の生活の中で、何を大切に、何を思い保育したらいいのか、すごく良いお話を聞けました。まだ、1日1日こなしていくことにいっぱい余裕がないですが、1人1人の子どもとちゃんと向き合い受けとめられたら良いなと思います。(指導員2ヶ月)

第7講座 教室の子どもたち

お話しが上手で、学校での子どもたちの様子が手に取るようにわかりました。その中で、先生はきちんと子ども一人ひとりを認めているのが伝わり、自分が欠けている部分として再認識しました。自分が子どもたちの話しをしているとき、生き生きと笑顔で接してないのでは...と反省です。今日の最大の学習は「子どもたちの前に笑顔で立つ」。今後の指針にします。(指導員4年2ヶ月)

第3講座 指導員の仕事・実務

研修も何もなくこの仕事に入ったため、その場、その場対応で済ませてきたが、本日の講座は新人としてまさに聞きたかったことが網羅されていたためになった。学童保育の意義や流れが大まかにわかったので、今後は、ここをスタートに実際の育成が楽しいものになるように知識を蓄積していきたい。(指導員6ヶ月)

第8A講座 発達障害の子どもたちの理解と支援

理論は本でも学ぶことができるのですが、実際、こういう時どうしたらよいかという具体的な部分を学べる機会は少ないので、とても良い機会になりました。明日からの保育に活かしていける貴重なお話でした。(指導員1年2ヶ月)

第4講座

子どものケガ・事故への対応、安全管理

指導員の基本である「保護者が安心して仕事ができるように、子ども達が安全に遊べる環境作り」について学ぶことができました。また、他の学童保育で起こったケガの事例や保護者とのエピソードが聞けてよかったです。(指導員1ヶ月)

第8B講座 発達障害の子どもたちの理解と支援

発達障害の自閉症、アスペルガー、ADHDやLDなどの分類について内容を細かく話していただいたり、パニックになってしまった時への対応や気持ちを理解する工夫(怒るのではなく、追いつめない、決めつけない、コミュニケーション等)少しずつ実践していきたい。(指導員3ヶ月)

第5講座 実践を記録する

記録は忘れない為にすること、意識して子どもを見ていくことが記録につながる。記録して残しておく事で、後々に振り返ることができると思いました。書くということは苦手ですが、記録の大切さがわかったので、がんばりたいと思いました。(指導員4年3ヶ月)

第9講座 子どもの発達のお話を学ぶ

講師のお話をもっと聞きたかった。あいまいな表現ではなく、はっきり言い切ってくれたところが、とても気持ちよく、明日からまたがんばろうと思う。他の地域の指導員さんと話ができただのも有意義でした。(指導員8年3ヶ月)

第10講座 子どものかかわり方～カウンセリングの手法から～

特にケンカの仲介では時間等の関係で、どうしてもこちら側が解決策を提案してしまうのですが、子どもに考えさせることが大切だということが今日のロールプレイングで実感できました。(指導員3ヶ月)

第11講座 学童保育のおやつ

講座の後半で出席者全員のおやつ作り、おやつ出しの現状、悩みを聞けたので、とてもためになりました。今後の保育の参考になったのでとても良い時間を過ごせました。(指導員2年1ヶ月)



第12講座 学童保育の生活とあそび

とっても楽しく受講させて頂きました。実は保護者として学童保育に預けている母でもあります。親の理解の部分は私も同じ保護者に伝えていきたいです。子どもたちのために、指導員として、保護者として、戦い、伝えていきたいと思いました!! 嵐の探検、私もやってみたいです!! (指導員1年3ヶ月)

第13講座 子どもの生活を保護者と伝え合う

保護者に子どもの様子を伝えることは指導員の仕事、伝えあうことができる信頼関係を築けるまでは、指導員が伝えることが大切なんです、ということをととても丁寧に話され、共感することがたくさんありました。(指導員13年2ヶ月)

第14講座 障害のある子を含めた生活づくり

その子どもだけ特別扱いではなく、全体をふくめての活動を自然な形で見つけていくように少し視点を変えてみていきたいと思った。失敗を怖がらずにかかわっていききたい。(指導員2ヶ月)

第15講座 行事と保育の見通し

講師の話で、子どもが見通しを持つ、指導員が思いを先行させないことは、とても大切に思いました。今年から子どもたちの帰りがさらに遅くなり、行事について悩むことが多く、この講座を受けましたが、とてもためになりました。また、質問も多くの方に答えていただけでよかったです。(指導員1年2ヶ月)

第16講座 いっしょにあそぼう

いろいろな遊びを教えていただけて、自分たちも楽しむことができたので、ぜひ学童で実践させていきたいと思った。簡単なものが多かったので、子どもたちも理解するのに時間がかからないと思った。(指導員2ヶ月)

第17講座 つくってあそぼう

夢中になって作品づくりをしました。うまくいかなかったとき『どうしてだろう?』『やったー、できた!』こんな思いを子どもたちに体験させてあげたいと実感しました。とても楽しかったです。(指導員6年2ヶ月)

第18講座 読み語り

読み語りは、ずっと研修で受けたいと思っていて、今回やっと実現。たかが読み語りと思いきや、人の心を豊かに、癒す力に驚きました。練習して心をひきつける読み語りを目指したいです。(指導員2年2ヶ月)



第19講座 「全児童対策事業」と学童保育

自分の勉強不足を感じました。やはり、どこの地域もすごく満足しているところなどは無いと思うので、自分たちも頑張っていかなければならないと思いました。(指導員8年)

東京23区	
区名	参加者数
千代田区	18
中央区	4
港区	8
新宿区	10
文京区	9
北区	1
荒川区	1
台東区	3
目黒区	6
品川区	7
大田区	1
世田谷区	3
渋谷区	9
中野区	0
杉並区	1
練馬区	10
板橋区	14
豊島区	2
足立区	1
江東区	15
葛飾区	28
墨田区	17
江戸川区	3
合計	171
東京三多摩	
市町村名	参加者数
八王子市	6
武蔵野市	3
三鷹市	5
府中市	1
昭島市	1
調布市	3
町田市	44
小平市	5
西東京市	16
多摩市	1
稲城市	3
あきる野市	1
無記入	1
合計	90
全国	
都道府県名	参加者数
山形	3
福島	4
茨城	9
栃木	1
群馬	25
埼玉	91
千葉	164
東京23区	171
東京三多摩	90
神奈川	174
新潟	7
富山	1
長野	25
静岡	27
三重	1
愛媛	2
岐阜	1
合計	796

第三四回全国学童保育指導員学校南関東会場 参加者数 二〇〇九年六月一四日(日) 大東文化大学板橋キャンパスにて

2009年 各区の総会報告

台東区連協定期総会報告に参加して

台東区は待機児解消対策を実施していますが、子どもの放課後生活に不安を与えないように進めていく必要があります。また、今年度からモデル実施の障がい児の学年延長についても、よりよい施策になるように、区に働きかけを行う必要があります。そして、今年は「第38回東京の学童保育研究集会」が台東区で開催されます。

こうした状況下で第7回台東区学童保育連絡協議会の総会が、6月12日（金）台東区生涯学習センターで開催されました。総会では、学童保育について活発な意見交換が行われた後、区連協が父母会の取組や運動・要望に協力してサポートしながら区連協加盟を促進していく事 子どもたちを取り巻く環境を改善・充実していく事 学校、PTA、区内の諸団体と交流をはかる事 学童保育のことや区連協の活動を広め、伝え、一緒に考えることを保護者などに呼びかけていく事 「第38回東京の学童保育研究集会」成功に向け活動を進めること の方針で新年度、活動していくことを参加者全員で確認しました。

東京都連協 副会長 土田

板橋区連協定期総会に参加して

2009年6月21日（日）大山東集会場にて、板橋区学童保育連絡協議会総会が開催されました。あいにくの空模様でしたが、大勢の父母会やブロックの代表者が参加しました。

昨年度は民間委託や大規模化と並び、2008年10月に区側より出された放課後教室事業「あいキッズ」への対応が大きな課題となり、これに対し板橋区連協は、区に要望書を提出し、懇談会を実施するとともに、区議会に対しては9項目からなる陳情書の提出し、各会派に主旨説明を行う等精力的に行動したことが、報告されました。

板橋の学童保育を守り保育内容を維持・向上するために大変重要な時期であるとの認識が皆に共有され、熱心な討議がなされました。陳情は現在も継続審議となっており、今後の動向が気になるところです。

活動報告の後は方針案、予算案、新役員が滞りなく承認されましたが、会議中の発言では、こうした一連の取組みを通じて、父母会活動が地域の子育てに役立っていると感じ、関わっていくことの大事さを確認したこと、父母会同士の交流の中で新しい遊びを発見した等も報告され、連絡協議会や父母会の本来の姿に触れていた参加者の報告が印象的でした。

東京都連協 副会長 江尻

【都庁訪問】東京都 子ども家庭支援課長、係長との懇談報告

2009年4月、東京都の組織改正があり、それまでの東京都福祉保健局少子社会対策部子育て支援課から子ども家庭支援課へ学童保育担当課の名称が変更となりました。また同時に、人事異動に伴い、課長と係長が替わりました。そのため、2009年6月18日、都連協役員と三多摩連協役員で都庁第1庁舎23階の担当課へご挨拶に伺いました。

挨拶だけと言うことでしたが、課長、係長ともそれぞれ文京区、足立区での学童保育経験者だったこともあり、一昨年の東京での全国研の様子や、都研集会（7/5）や三多摩フォーラム（6/28）など準備中の集会の様子も話をしてきました。今後とも東京の学童保育の充実のため、力を尽くして欲しい旨お願いしてきました。また、秋には予算要望での時間を取ってもらうよう依頼しました。

続いて、全児童対策事業や放課後こどもプランなどの担当課、東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課のある都庁第2庁舎27階へ向かいました。久々に何うと支援担当係長も替わられており、こちらも初対面でのご挨拶となりました。

東京都連協 会長 光武

【2009年 今後の予定】

都議会各会派との懇談

懇談日 9月8日(火)

集合時間 朝9時40分

場所 都庁第1庁舎1階 総合受付付近

懇談スケジュール

民主党 10時～10時20分

公明党 10時30分～11時

共産党 11時～12時

* 懇談の前に参加者の打ち合わせを行います。

集合時間にお集まりください。

* 懇談に参加される場合は、前日9/7(月)迄に都連協事務所(Tel 03-5951-2789)へご連絡ください。

定期総会前最後の運営委員会です

第12回 運営委員会

日時 9月16日(水)19時～

会場 豊島区駒込地域文化創造館

豊島区駒込2-2-2 03-3940-2400

東京メトロ・JR山手線 駒込駅北口より徒歩2分



第38回 東京都連協 定期総会

日時 10月4日(日)10時～16時(予定)

会場 文京区民センター 2-A会議室

文京区本郷4-15-14 03-3814-6731

東京メトロ丸の内線・南北線 後楽園より徒歩3分

都営三田線 春日駅A2出口0分 JR水道橋より徒歩10分

情勢 活動報告・総括 方針

(昼食休憩時には、ブロック会議を行います。)

各区連協・父母連・団体より複数でのご出席をお願い致します。個人会員の皆様もぜひお集まりください。

学童保育

『大規模対策 分離・分割』 交流・学習会

日時 9月13日(日)13時～17時

会場 豊島区南大塚地域文化創造館

豊島区南大塚2-36-1 03-3946-4301

JR山手線大塚駅南口 東京メトロ丸の内線新大塚駅

参加費 無料

23区では、定員を超えた受け入れが進み、また、『全児童対策と連携・一体化された』学童保育でも、100名を超えるところも“放置された”ままです。子どもたちは、狭いところに押し込まれ、不安定な精神状態に置かれるといった『大規模学童保育』の問題の中で生活しています。『大規模学童保育』の解決には、「増設 分離・分割」しかありません。この課題の検討を進めるため、23区で分離・分割して運営している学童保育の報告を受け、交流をしたいと思います。分離・分割して運営されている学童保育、大規模で問題を抱えている学童保育の父母・指導員の皆様のご参加をお待ちしています。

東京の学童保育を充実させる連絡会 学習会 自分を支える力とは？ 学びとは？

～ 引きこもる青年たちとの関わりを通して ～

日時 9月27日(日)13時30分～16時

会場 家庭クラブ会館 渋谷区代々木3-20-6

JR新宿駅南口より徒歩7分

講師 佐藤 洋作氏

(NPO 法人 文化学習協同ネットワーク代表理事)

参加費 無料




指導員、父母のみなさん、なつやすみはいかがでしたか？！

『日本の学童ほいく』を読みましょう！

気づいてましたか？この号で「とれんきょうにゆーす」は100号を向かえました。それなのに、6月と7月の合併号なんて・・・それはさておき、お盆もあけ、8月もあと約1週間弱！8月も終盤を迎え、暑い夏も残りわずかとなってきました。子どもたちにとっては、夏休みのラストスパート(遊び？宿題？・・・いろんな意味で)に入っているのでは。夏休み特集も以前されていましたが、役に立ちましたでしょうか？夏バテや流行っている「新型インフルエンザ」に負けないよう、栄養をつけ、楽しくがんばりましょう。

日ごろ何気なく読んでいた『日本の学童ほいく』誌が、ためになる『学童ほいく』誌に。ほいく誌は1冊330円(税込)。地域の連絡協議会・父母連までお尋ねください。東京都連協へ直接お申し込みの場合は、年間購読料は4,800円(送料込み)でお届けします。

【2009年9月号の紹介】

<p>日本の学童ほいく 2009年9月号・No. 409</p> <p>9月号</p> <p>★ずいそろ 落雷被害から身を守るには 河崎善一郎 4</p> <p>特集 学童保育の適正規模を考える</p> <p>子どものために適正規模の実現を 山本博美 6</p> <p>初めて「適正規模での保育」を体験して 山口千佳子 13</p> <p>「こんなのは学童じゃない」——子どもたちの声に後押しされて 堀花道朗 18</p> <p>文京区の学童保育の適正規模について 長沼達夫 23</p> <p>少人数規模が多いヨーロッパの学童保育 池本美香 28</p> <hr/> <p>家事を一緒に 読者からの投稿 76</p> <hr/> <p>★講座……(連載) 今日の子育てと学童保育 最終回 学童保育の指導員の専門性を考える ——「子どもの育ちを守ること」と「親を支えること」のジレンマのなかで模索を続ける 鈴木佐喜子 54</p>	<p>・岸本さんのカメラでこんにちは 岩手県花巻市=銀河学童クラブ 32</p> <p>◆子どもクイズらんど — いのうえ ひいる 37 ◆どうして どうして? 38 ◆子どものひろば — 40 ◆まんが「学童ふいふい」—— RANKO 44</p> <p>・読者のひろば — 45 ・第44回全国学童保育研究会まで2か月まりました—— 49 ・私のおすすめ この絵本『そらまめくんと なかないがいまめ』—— 51</p>  <p>・知ってビックリ、動物たちの姿 鳴く虫 東京都多摩動物公園・杉田 務 53</p> <p>・教室の子どもたち 「いじめ」を考える 伊藤和実 60</p> <p>・出会い楽しい父母会 こんにちは！ 寺キッズクラブです。 古川千代加 62</p> <p>・子育て日記 子どもとともに成長する 宮本由佳 64</p> <p>・わたしは指導員 つくり運動から指導員に——子育てする仲間として 勝川志保子 67</p> <p>・実践ノート 受け止められながら育つ② 大城喜代美 70</p> <p>・たのしいな ひまわり焼き 福岡県遠賀町/広渡小ひまわりクラブ 75</p> <p>・ねっとわーく 仙台市/ざいたま市 80</p> <p>・協議会だより 82</p> <p>表紙のテーマ「みんな おじいちゃんおばあちゃん大好き！」 ●次号予告・編集後記 84 ●とびら=高橋百花(三年)</p> <p>表紙=横田智輝 写真=杉本正義 図・特撮イラスト=種田裕治 イラスト=伊藤リフコ/せましいずみ/オーパス/アスター/のぼりうみさみ/鈴木香織</p>
--	---

専従後記 その24 秋の全国研は滋賀開催 草津よいとこ 1度はおいで

第44回全国研は、10/24(土) - 25(日)、滋賀県での開催です。会場は、全体会は滋賀県立体育館、分科会は立命館大学びわこ・くさつキャンパスです。関連情報のご紹介です。

【参加申込】連絡協議会・父母連のある地域はエクセルの専用フォーマットを活用、少人数でも団体ごとにまとめて申し込みを。なお2日目分科会、近隣で昼食を買えるお店がありません。分科会参加の方は必ず弁当も申し込んでください。現金書留を避け、参加費・弁当代の送金は郵便振替をお願いします。集会間際や当日申込の混雑を避け、10月15日(木)迄に滋賀県連協へ。

【宿 泊】滋賀県内、宿泊先少なく独自の手配は難しいとか。ぜひリーフレットにある宿泊先の活用を先着順受付、満室の場合は締切。早めに所定の旅行社へ。申し込み期限は10月5日(月)。宿泊施設は、利便性の高いところから埋まります。独自での手配の場合でも、早めの確保を。京都も近いのですが、全国研と同じ日程で別集会有り、すでに多くの宿泊先を押さえられている・秋の観光シーズンと重なって宿泊費も割高、との情報もあります。

【交 通】新幹線なら東京 京都は約2時間30分。全体会場はJR琵琶湖線「膳所(ぜぜ)駅」、分科会場はJR琵琶湖線「南草津駅」が最寄り駅です。

学童保育の父母・指導員の皆さん、誘い合って参加しましょう。 東京都連協 専従職員 菅井 憲子